

《今朝の聖書から》

今日はアドベント（待降節）第一主日になります。今週は待降節第一週です。クリスマスの礼拝には、ロウソクの数4本になります。今年、去年よりも素晴らしく、喜ばしいクリスマスを迎えましょう。聖書の箇所には、宮で教えておられるイエス様の姿が描かれていますが、結論は、31節の“しかし、群衆の中の多くの者が、イエスを信じて言った、「キリストがきても、この人が行ったよりも多くのしるしを行うだろうか。」”ということに結びついています。多くの者が“この目の前で見ている人がキリストである”と信じたのです。ちょっと考えてみましょう。この時から十年か二十年後には、教会といわれるものができてきます。彼らの内には、イエス様を見、イエス様と話した人々がいっぱいいたことが聖書を読むと判ります。見たのですから、真剣に次の若者に伝え、更に伝え、どうしようもないほどに確かな真実として、私たちは信じているということになります。私たちが生まれた時が、疑いもないほど確かに、それぞれ分かっているのと同じことです。見てはいませんが、確かなことというものは沢山世の中にあります。ところが、イエス様が、数知れない証拠によって、神の子として来られたことが判っていても、信じるかどうかということが問題になります。私たちの前には、“神の子という人がいて、その人が来るなどとは信じられない”という考えが立ちはだかっているのです。“ローマ人への手紙”では、アブラハムの例をもって、信じることの大切さを説明しています。“彼は望み得ないのに、なおも望みつつ信じた。そのために、「あなたの子孫はこうなるであろう」と言われているとおりに、多くの国民の父となったのである。(4:18)”とあります。私たちは聖霊の働きを、あえて無視して、のぞみ得ないこと、理解できないことを拒絶するのが、とても得意で、神様の働きを理解出来ることに押し込めてしまおうとするのが、とても上手です。30節には“そこで人々はイエスを捕えようと計ったが、だれひとり手をかける者はなかった。イエスの時が、まだきていなかったからである。”と、時への期待が表されています。私たちにも神様の時がやってきます。もし時がなかったら、私たちを待っているのは、何事も起こり得ない、黄泉の世界ということになります。しかし私たちには、キリストの時に希望を抱くことが出来るのです。神様の時が御子を通して、このクリスマスの時に、成就したことを今年も、思い出しましょう。

週報

2007年 12月 2日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸